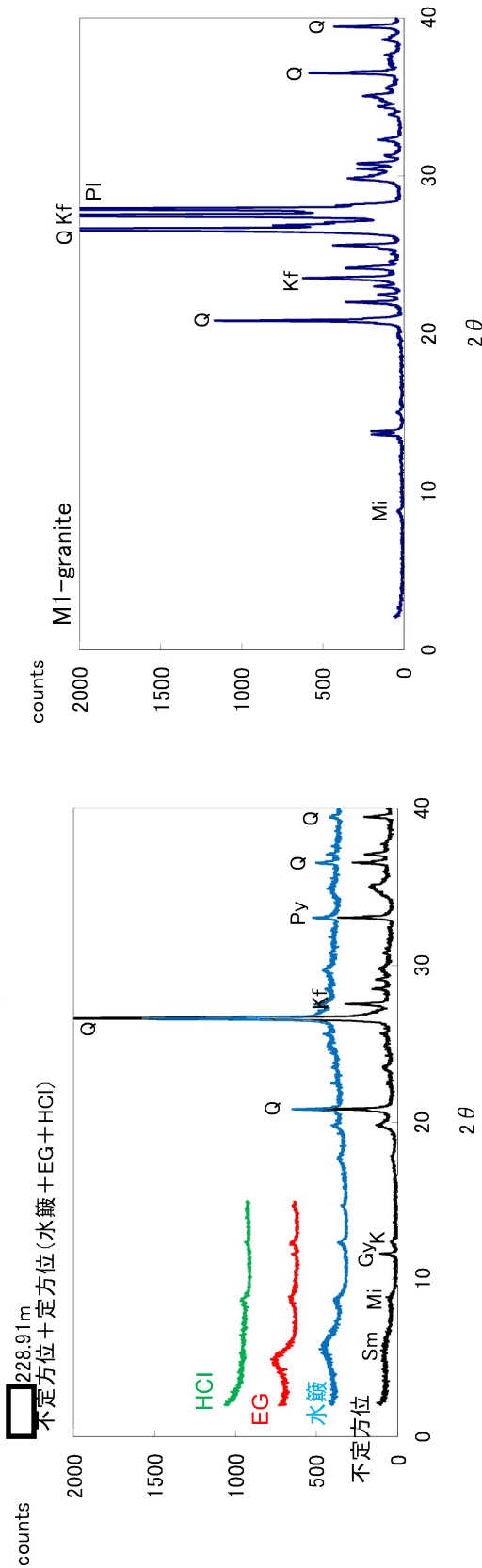


228.91m付近 XRD分析結果

ボーリングコア(敷地外No.2孔の深度83m)から採取した新鮮な花崗岩と破砕部の鉱物組成を比較する。



228.91m 破砕部のチャート

水蒸気・EG処理・塩酸(HCl)処理を施した試料の回折パターンは、見やすくするため不定方位の回折パターンの上方にずらして表示した。

新鮮な花崗岩※のチャート

※ボーリング敷地外No.2孔の孔底付近より採取

X線粉末回折結果

孔番	深度と性状	スメクタイト	雲母粘土鉱物	カオリン鉱物	石英	斜長石	カリ長石	方解石	黄鉄鉱	石膏
228.91m	破砕部	△	△	-	○	-	-	-	○	△

(基本は不定方位分析の回折線を使用)

凡例 ◎:多い ○:ある △:少ない -:疑わしい ∴:水蒸気試料のみで確認

記号凡例

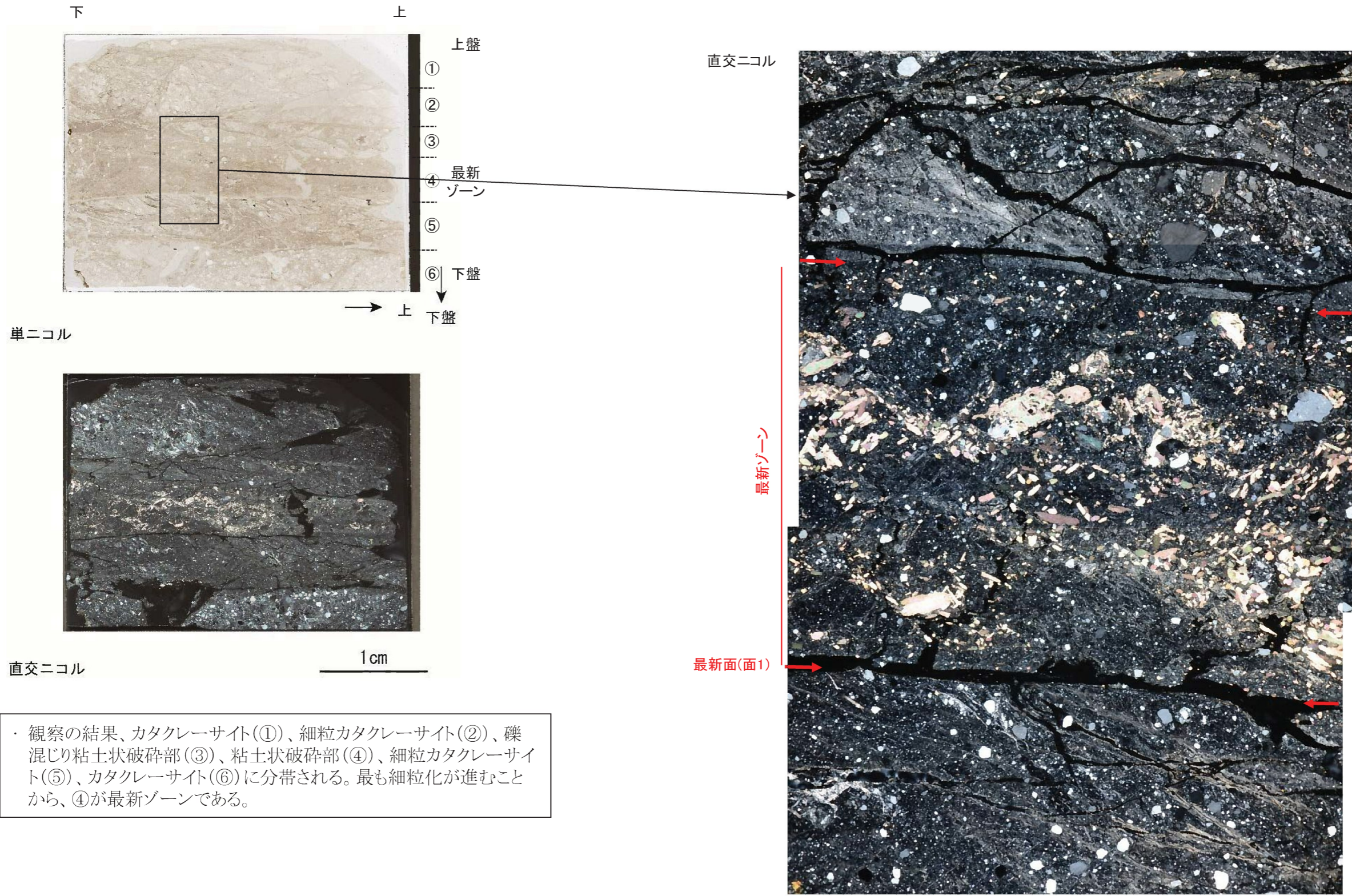
- Q: 石英
- Kf: カリ長石
- Pl: 斜長石
- Sm: スメクタイト
- Mi: 雲母粘土鉱物
- K: カオリン鉱物
- Ca: 方解石
- Py: 黄鉄鉱
- Gy: 石膏

- 228.91mの破砕部は新鮮な花崗岩に比べ斜長石やカリ長石の割合が小さくなっている。
- 228.91mの破砕部は、スメクタイト、雲母粘土鉱物、カオリン鉱物を生成している。
- よって、228.91mの破砕部は熱水変質作用を受けていると判断される。

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。

87.08m付近 薄片観察結果(1)

として認定した破碎部のうち 87.08m付近で認められた破碎部の詳細な観察を行った。



・ 観察の結果、カタクレーサイト(①)、細粒カタクレーサイト(②)、礫混じり粘土状破碎部(③)、粘土状破碎部(④)、細粒カタクレーサイト(⑤)、カタクレーサイト(⑥)に分帯される。最も細粒化が進むことから、④が最新ゾーンである。

・ 最新ゾーン中に自生の方解石が生成し、破碎されていない。

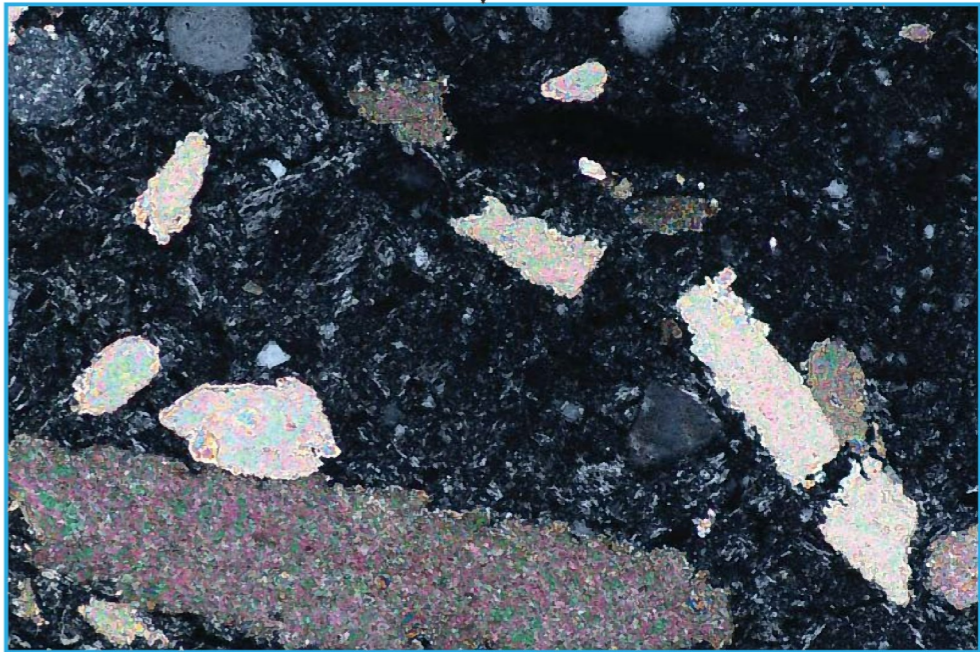
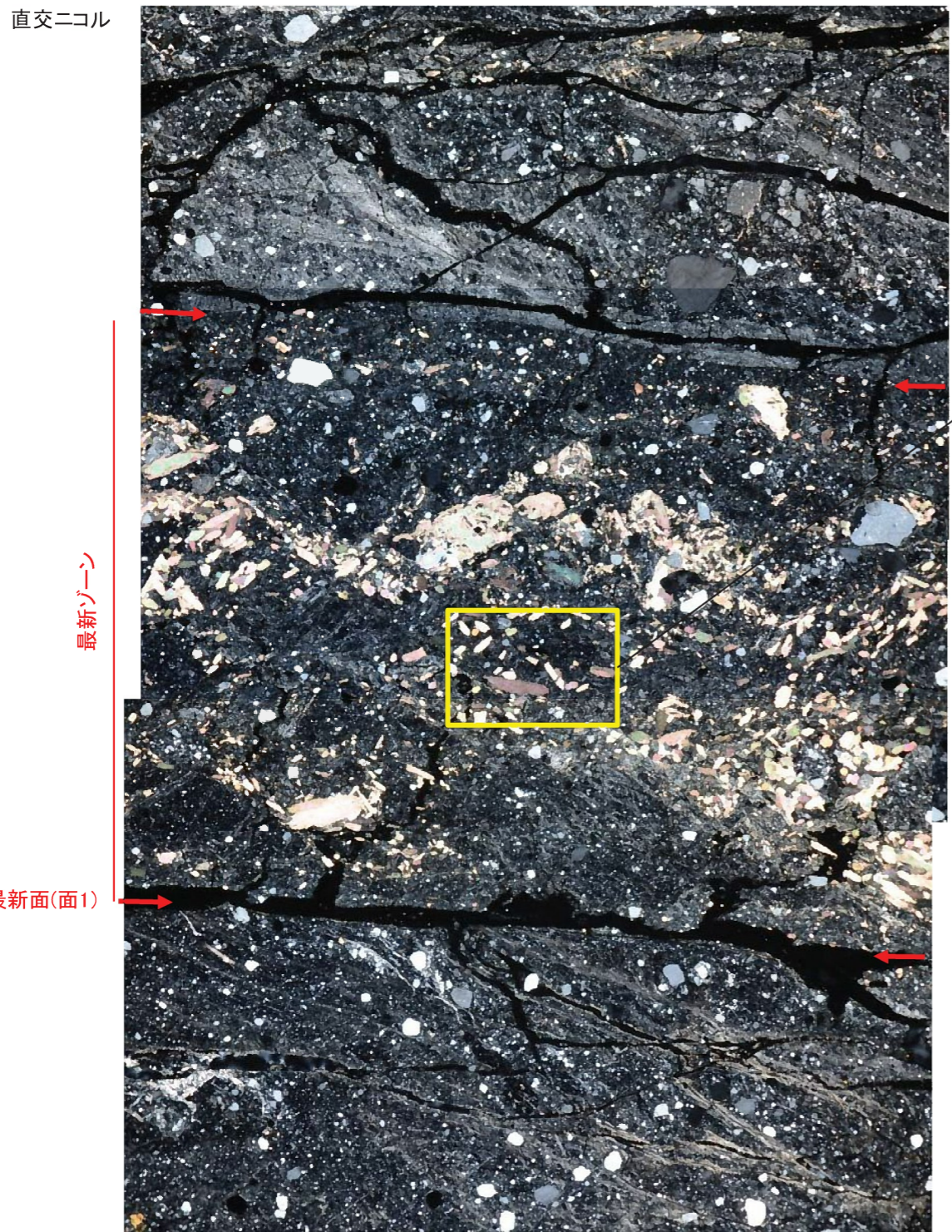
第 1. 8. 37 図(1) 87. 08m 付近 薄片観察結果(1)

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

87.08m付近 薄片観察結果(2)

として認定した破碎部のうち 87.08m付近で認められた破碎部の詳細な観察を行った。

直交ニコル



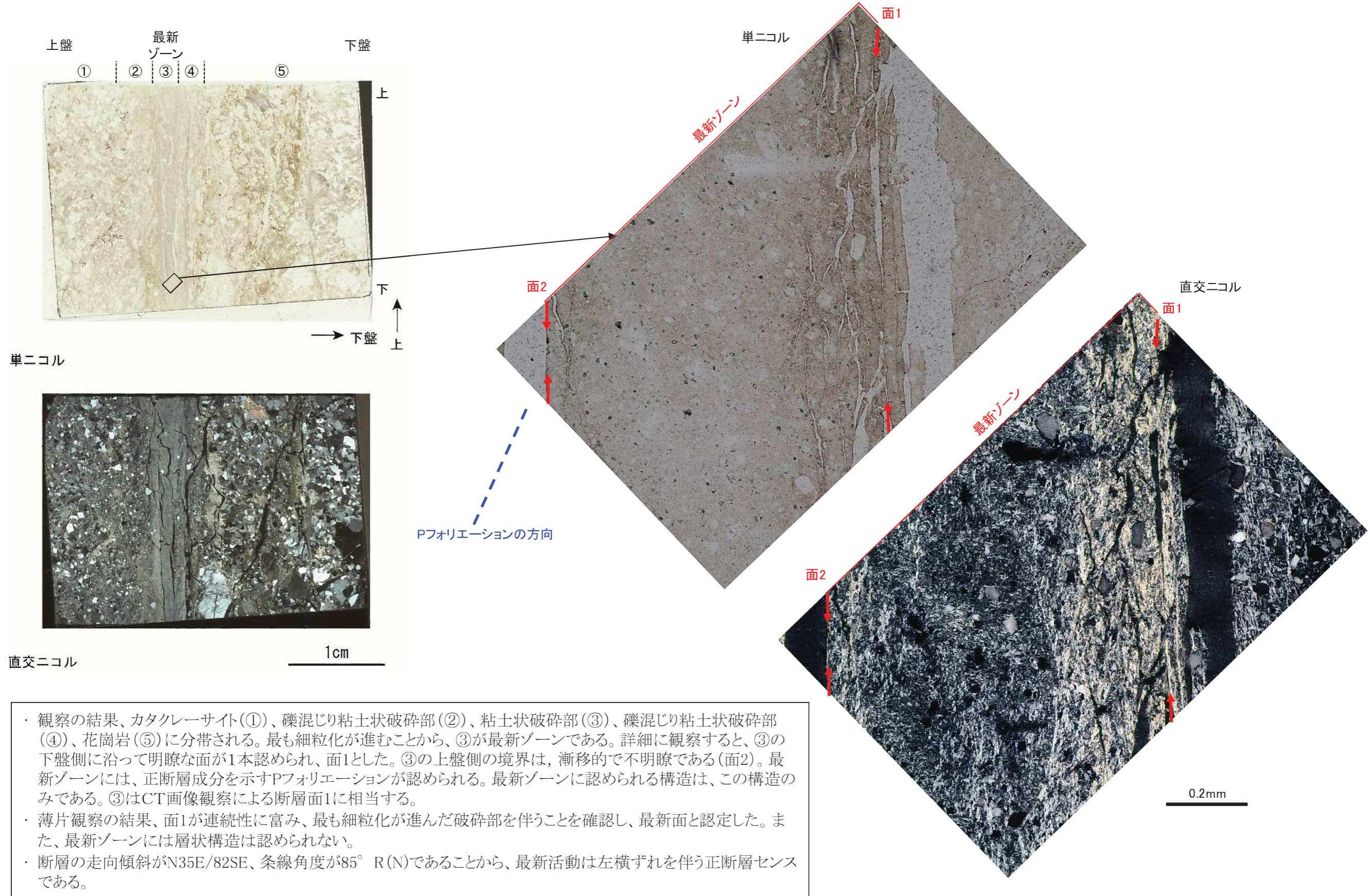
・最新ゾーン中に自生の方解石が生成し、破碎されていない。

第 1. 8. 37 図(2) 87. 08m 付近 薄片観察結果(2)

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

—破砕部① 薄片観察結果—

その他の破砕部のうち で認められた破砕部のCT画像観察、条線観察を実施した上で、薄片を観察し、変形構造の確認を行った。

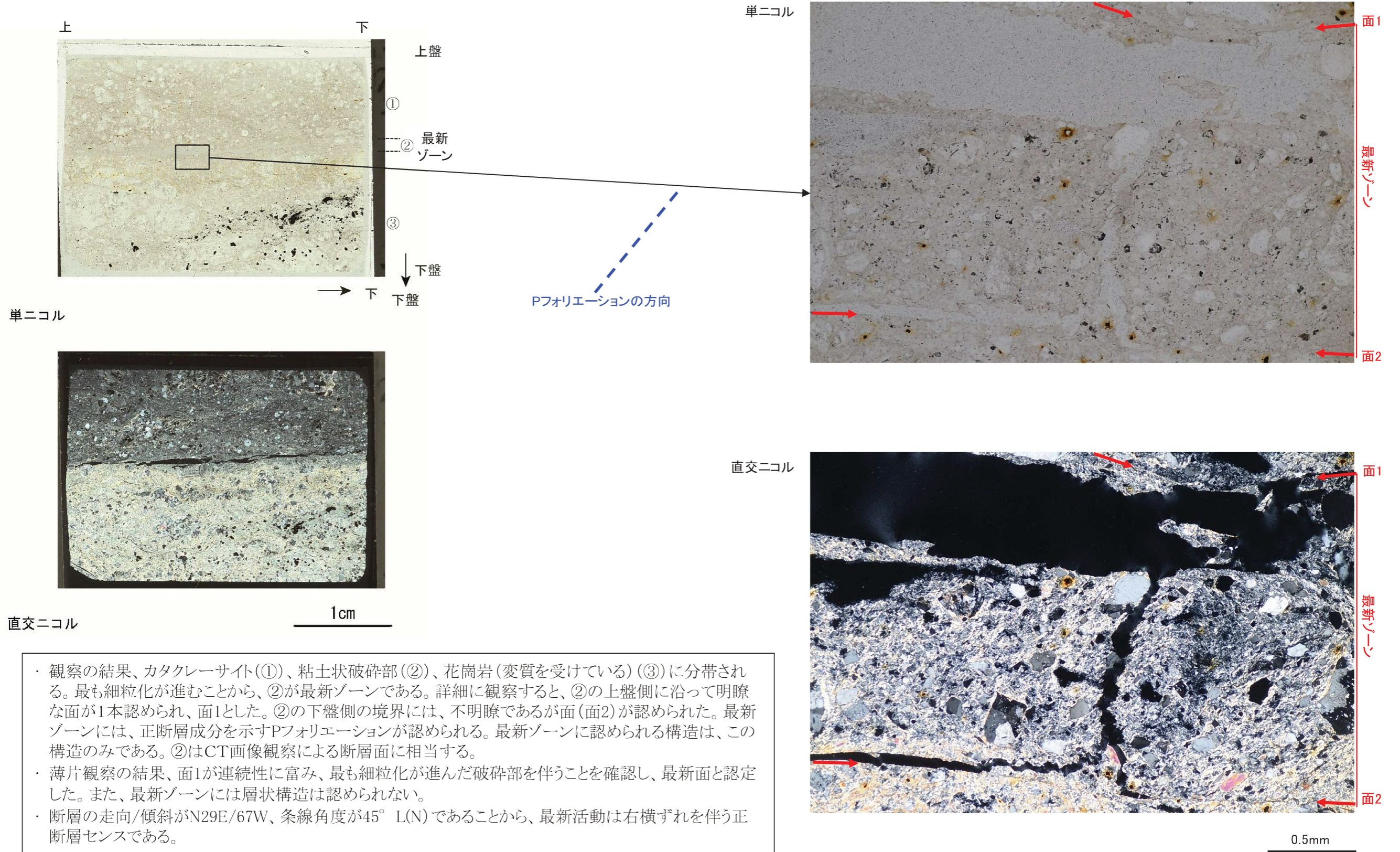


第 1.8.38 図(1) 活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(1)

活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(2)

—破砕部⑥ 28.65m付近 薄片観察結果—

その他の破砕部のうち 28.65m付近で認められた破砕部のCT画像観察、条線観察を実施した上で、薄片を観察し、変形構造の確認を行った。

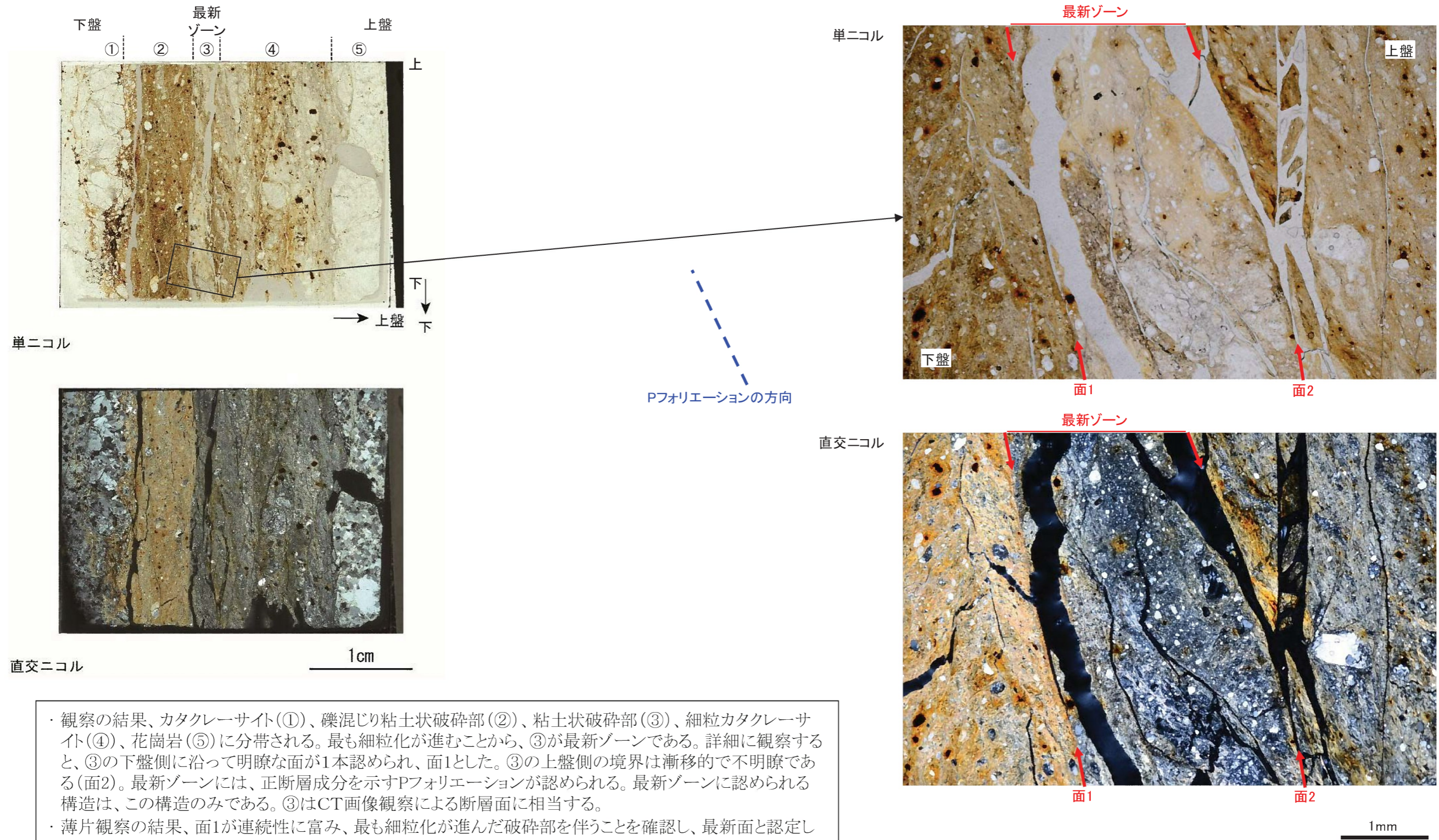


第 1.8.38 図(2) 活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(2)

活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(3)

—破砕部⑦ 37.70m付近 薄片観察結果—

その他の破砕部のうち 37.70m付近で認められた破砕部のCT画像観察、条線観察を実施した上で、薄片を観察し、変形構造の確認を行った。



- ・ 観察の結果、カタクレーサイト(①)、礫混じり粘土状破砕部(②)、粘土状破砕部(③)、細粒カタクレーサイト(④)、花崗岩(⑤)に分帯される。最も細粒化が進むことから、③が最新ゾーンである。詳細に観察すると、③の下盤側に沿って明瞭な面が1本認められ、面1とした。③の上盤側の境界は漸移的で不明瞭である(面2)。最新ゾーンには、正断層成分を示すPフォリエーションが認められる。最新ゾーンに認められる構造は、この構造のみである。③はCT画像観察による断層面に相当する。
- ・ 薄片観察の結果、面1が連続性に富み、最も細粒化が進んだ破砕部を伴うことを確認し、最新面と認定した。また、最新ゾーンには層状構造は認められない。
- ・ 断層の走向/傾斜がN18E/78E、条線角度が88° R(N)であることから、最新活動は左横ずれを伴う正断層センスである。

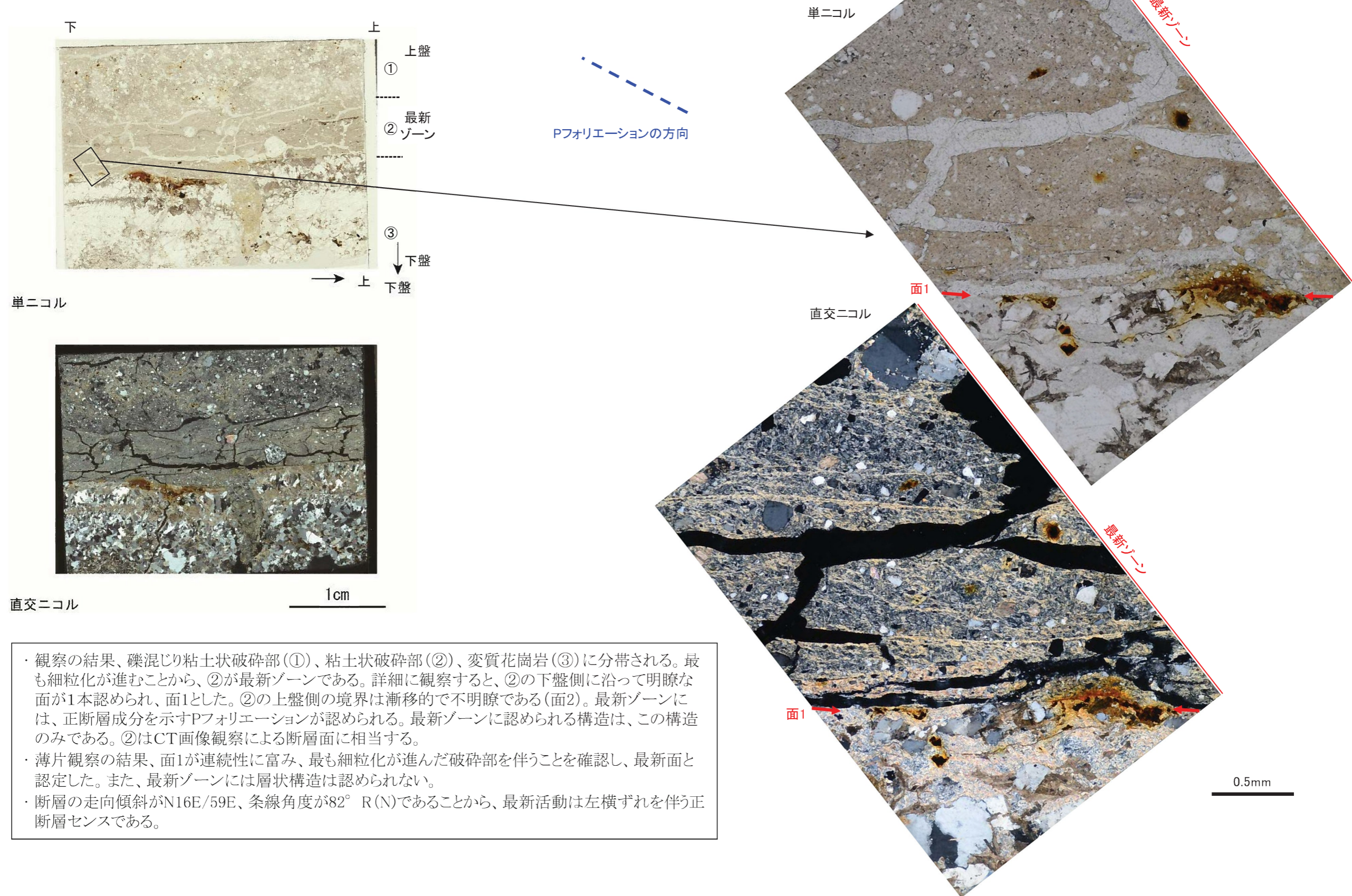
第 1.8.38 図(3) 活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(3)

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(4)

—破砕部⑧ 216.70m付近 薄片観察結果—

その他の破砕部のうち 216.70m付近で認められた破砕部のCT画像観察、
条線観察を実施した上で、薄片を観察し、変形構造の確認を行った。



- ・ 観察の結果、礫混じり粘土状破砕部(①)、粘土状破砕部(②)、変質花崗岩(③)に分帯される。最も細粒化が進むことから、②が最新ゾーンである。詳細に観察すると、②の下盤側に沿って明瞭な面が1本認められ、面1とした。②の上盤側の境界は漸移的で不明瞭である(面2)。最新ゾーンには、正断層成分を示すPフォリエーションが認められる。最新ゾーンに認められる構造は、この構造のみである。②はCT画像観察による断層面に相当する。
- ・ 薄片観察の結果、面1が連続性に富み、最も細粒化が進んだ破砕部を伴うことを確認し、最新面と認定した。また、最新ゾーンには層状構造は認められない。
- ・ 断層の走向傾斜がN16E/59E、条線角度が82° R(N)であることから、最新活動は左横ずれを伴う正断層センスである。

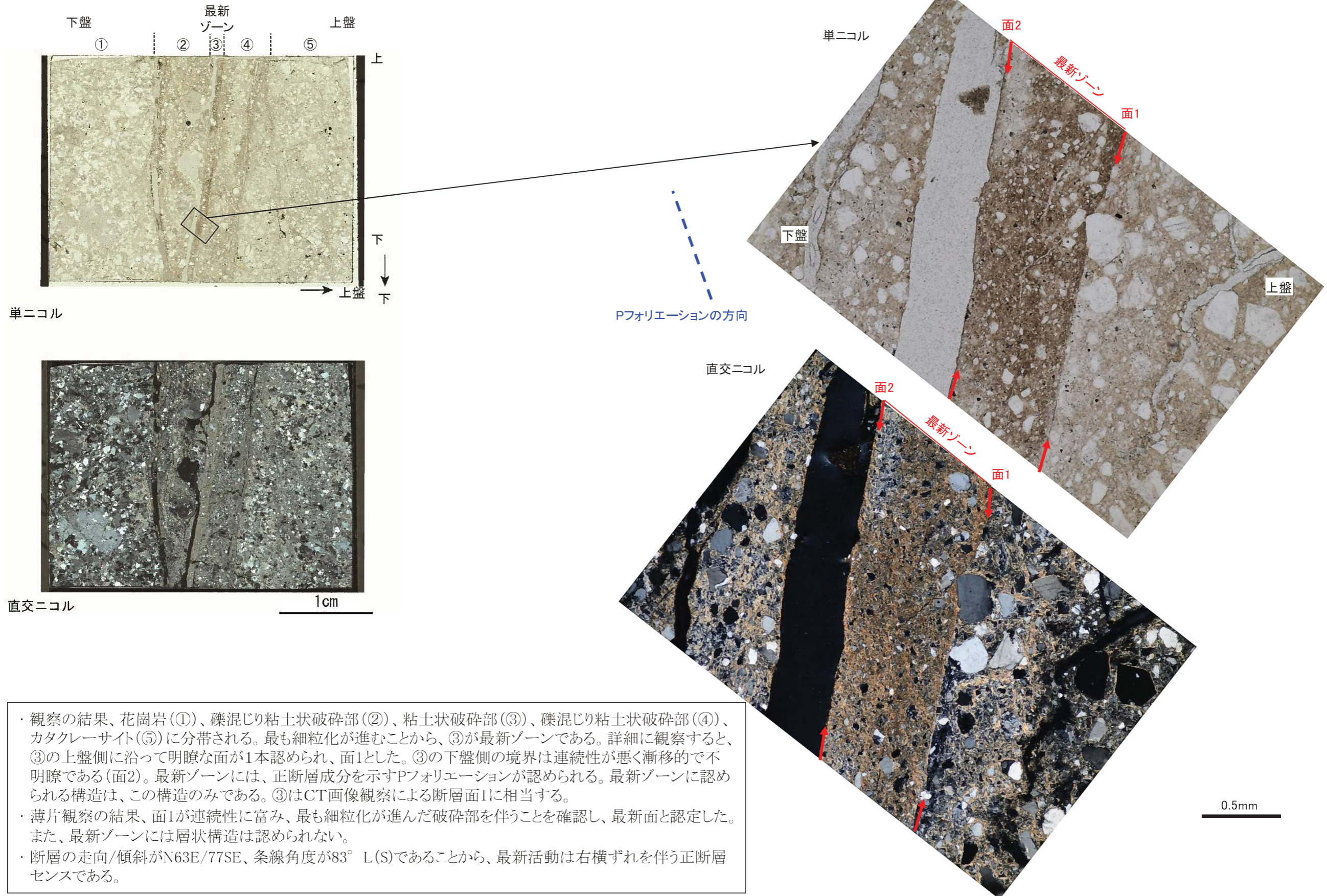
第 1.8.38 図(4) 活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(4)

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。 6-1-107

活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(5)

—破砕部⑨ [] 18.80m付近 薄片観察結果—

その他の破砕部のうち [] 18.80m付近で認められた破砕部のCT画像観察、条線観察を実施した上で、薄片を観察し、変形構造の確認を行った。



- ・ 観察の結果、花崗岩(①)、礫混じり粘土状破砕部(②)、粘土状破砕部(③)、礫混じり粘土状破砕部(④)、カタクレサイト(⑤)に分帯される。最も細粒化が進むことから、③が最新ゾーンである。詳細に観察すると、③の上盤側に沿って明瞭な面が1本認められ、面1とした。③の下盤側の境界は連続性が悪く漸移的で不明瞭である(面2)。最新ゾーンには、正断層成分を示すPフォーリエーションが認められる。最新ゾーンに認められる構造は、この構造のみである。③はCT画像観察による断層面1に相当する。
- ・ 薄片観察の結果、面1が連続性に富み、最も細粒化が進んだ破砕部を伴うことを確認し、最新面と認定した。また、最新ゾーンには層状構造は認められない。
- ・ 断層の走向/傾斜がN63E/77SE、条線角度が83° L(S)であることから、最新活動は右横ずれを伴う正断層センスである。

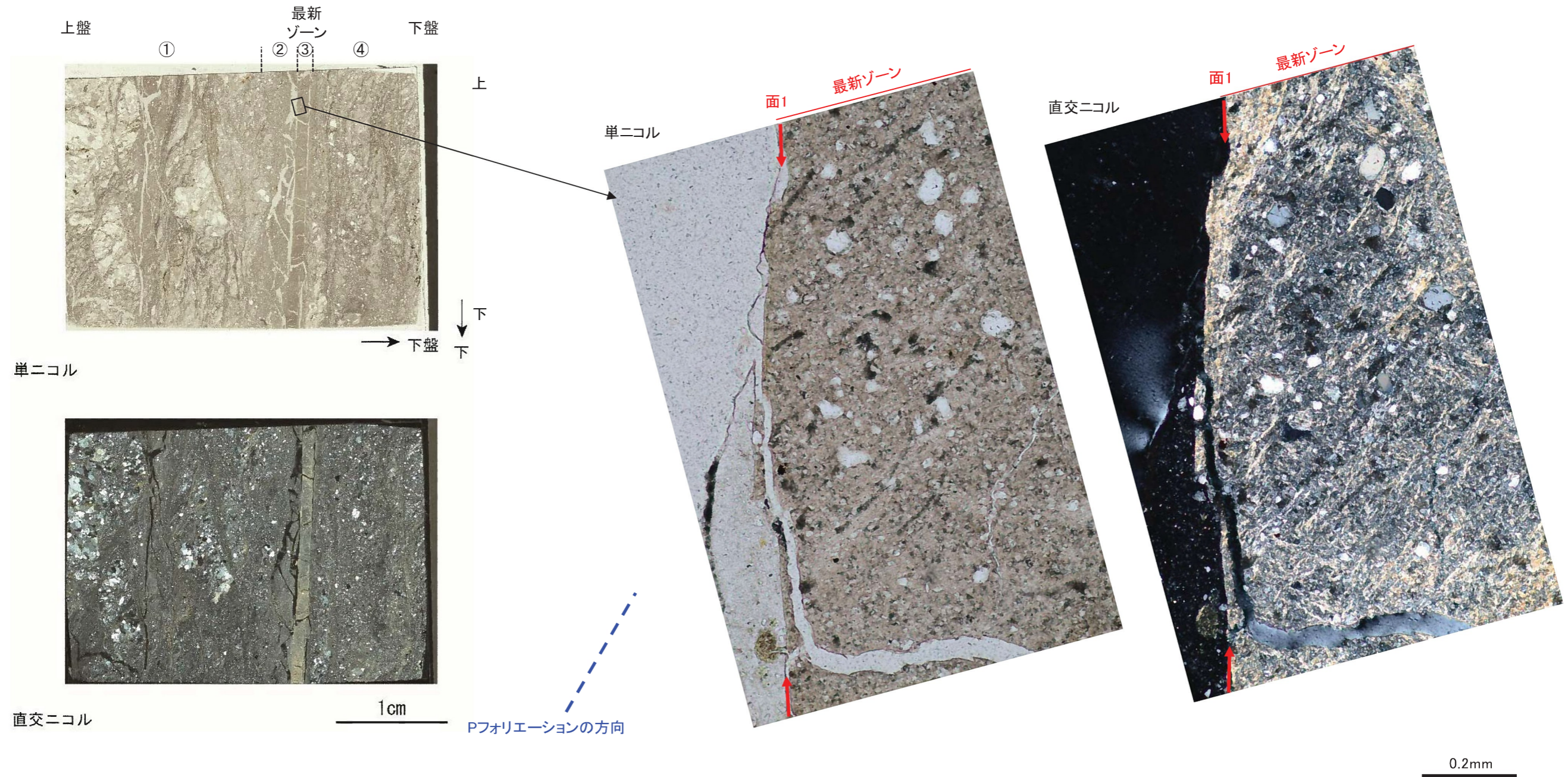
第 1.8.38 図(5) 活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(5)

[] 枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(6)

—破砕部⑩ 39.15m付近 薄片観察結果—

その他の破砕部のうち 39.15m付近で認められた破砕部のCT画像観察、条線観察を実施した上で、薄片を観察し、変形構造の確認を行った。



・ 観察の結果、カタクレーサイト(①)、礫混じり粘土状破砕部(②)、粘土状破砕部(③)、細粒カタクレーサイト(④)に分帯される。最も細粒化が進むことから、③が最新ゾーンである。詳細に観察すると、③の上盤側に沿って明瞭な面が1本認められ、面1とした。③の下盤側の境界もやや明瞭である(面2)。最新ゾーンには、正断層成分を示すPフオリエーションが認められる。最新ゾーンに認められる構造は、この構造のみである。③はCT画像観察による断層面に相当する。

・ 薄片観察の結果、面1が連続性に富み、最も細粒化が進んだ破砕部を伴うことを確認し、最新面と認定した。また、最新ゾーンには層状構造は認められない。

・ 断層の走向/傾斜がN48E/69NW、条線角度が86° L(N)であることから、最新活動は右横ずれを伴う正断層センスである。

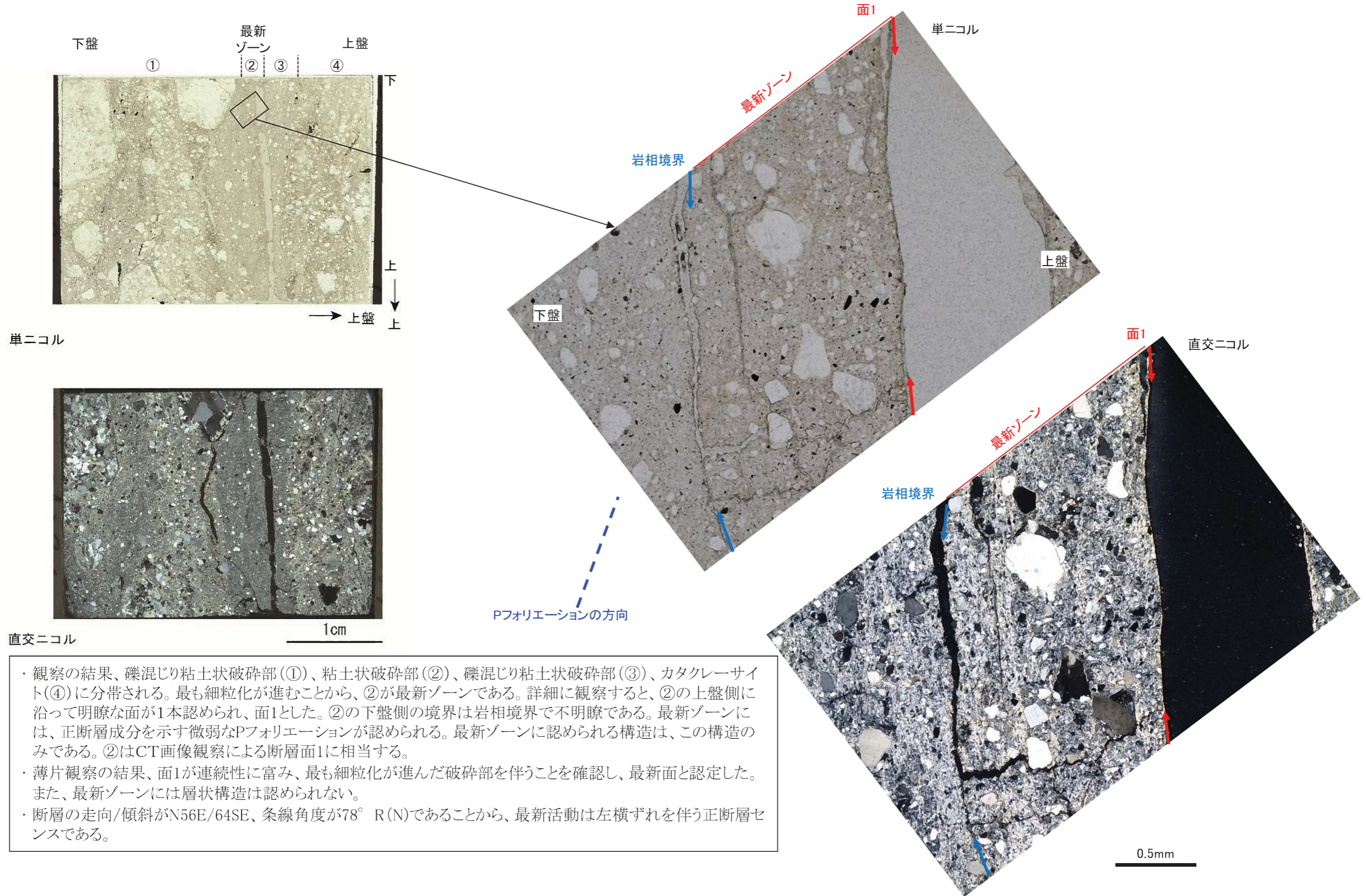
第 1.8.38 図(6) 活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(6)

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(7)

—破砕部⑰ 48.45m付近 薄片観察結果—

その他の破砕部のうち 48.45m付近で認められた破砕部のCT画像観察、条線観察を実施した上で、薄片を観察し、変形構造の確認を行った。



- ・ 観察の結果、礫混じり粘土状破砕部(①)、粘土状破砕部(②)、礫混じり粘土状破砕部(③)、カタクレーサイト(④)に分帯される。最も細粒化が進むことから、②が最新ゾーンである。詳細に観察すると、②の上盤側に沿って明瞭な面が1本認められ、面1とした。②の下盤側の境界は岩相境界で不明瞭である。最新ゾーンには、正断層成分を示す微弱なPフォリエーションが認められる。最新ゾーンに認められる構造は、この構造のみである。②はCT画像観察による断層面1に相当する。
- ・ 薄片観察の結果、面1が連続性に富み、最も細粒化が進んだ破砕部を伴うことを確認し、最新面と認定した。また、最新ゾーンには層状構造は認められない。
- ・ 断層の走向/傾斜がN56E/64SE、条線角度が78° R(N)であることから、最新活動は左横ずれを伴う正断層センスである。

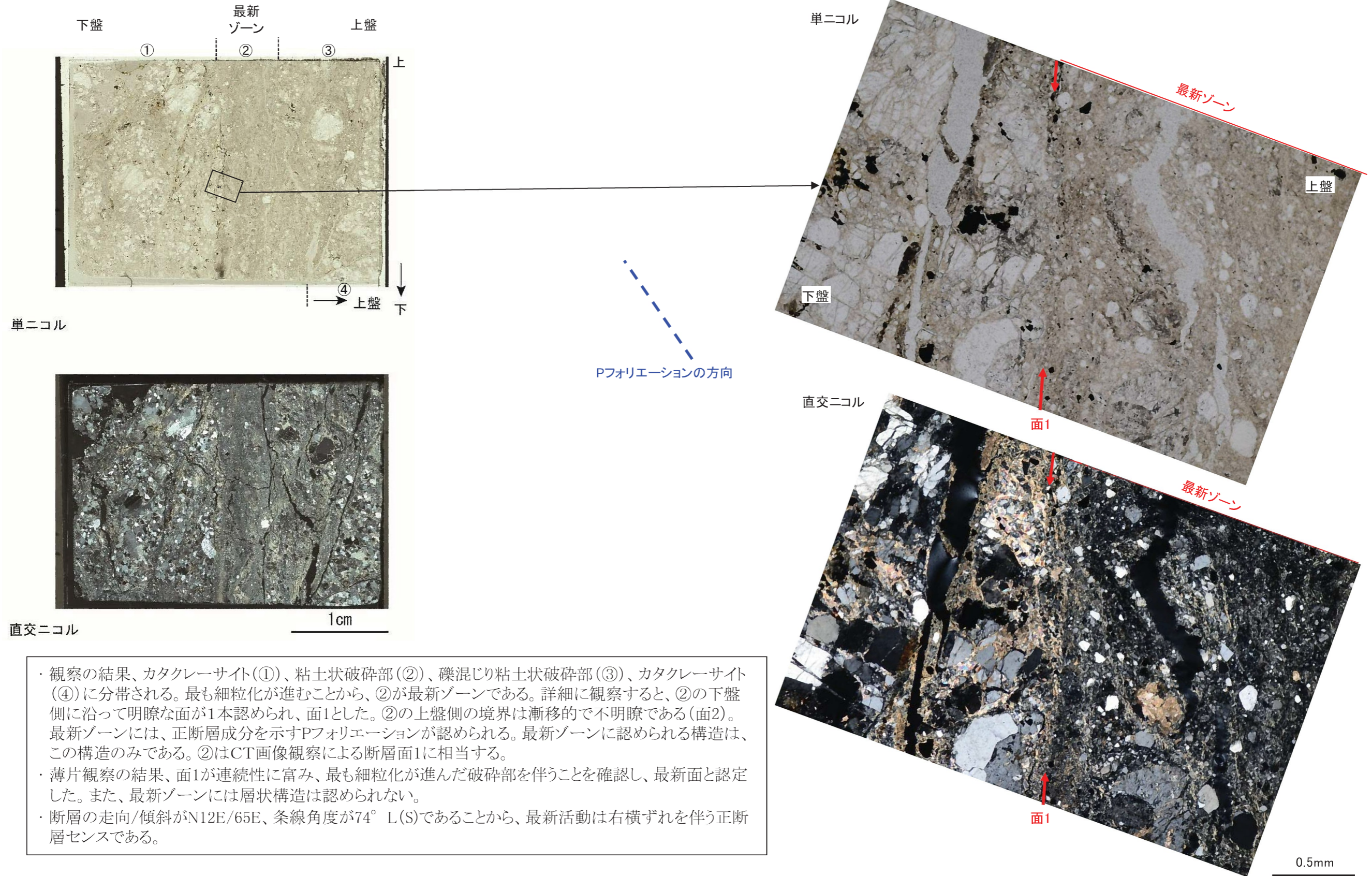
第 1.8.38 図(7) 活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(7)

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(8)

—破砕部⑬ 5.20m付近 薄片観察結果—

その他の破砕部のうち 5.20m付近で認められた破砕部のCT画像観察、条線観察を実施した上で、薄片を観察し、変形構造の確認を行った。



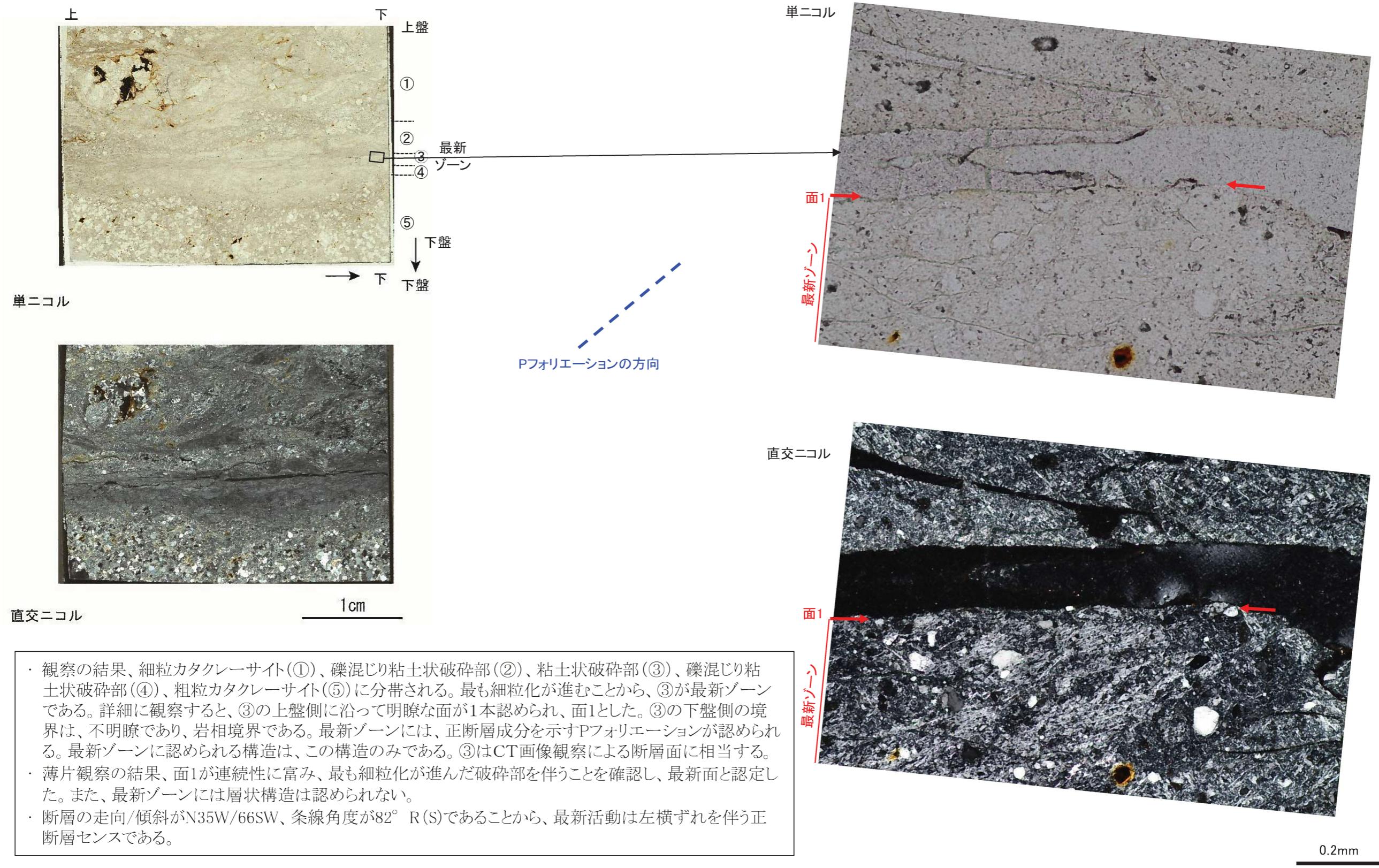
- ・観察の結果、カタクレーサイト(①)、粘土状破砕部(②)、礫混じり粘土状破砕部(③)、カタクレーサイト(④)に分帯される。最も細粒化が進むことから、②が最新ゾーンである。詳細に観察すると、②の下盤側に沿って明瞭な面が1本認められ、面1とした。②の上盤側の境界は漸移的で不明瞭である(面2)。最新ゾーンには、正断層成分を示すPフォーリエーションが認められる。最新ゾーンに認められる構造は、この構造のみである。②はCT画像観察による断層面1に相当する。
- ・薄片観察の結果、面1が連続性に富み、最も細粒化が進んだ破砕部を伴うことを確認し、最新面と認定した。また、最新ゾーンには層状構造は認められない。
- ・断層の走向/傾斜がN12E/65E、条線角度が74° L(S)であることから、最新活動は右横ずれを伴う正断層センスである。

第 1.8.38 図(8) 活動性評価を代表する破砕帯があるその他の破砕部 薄片観察結果(8)

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

破砕部⑤ 27.20m付近 薄片観察結果(1)

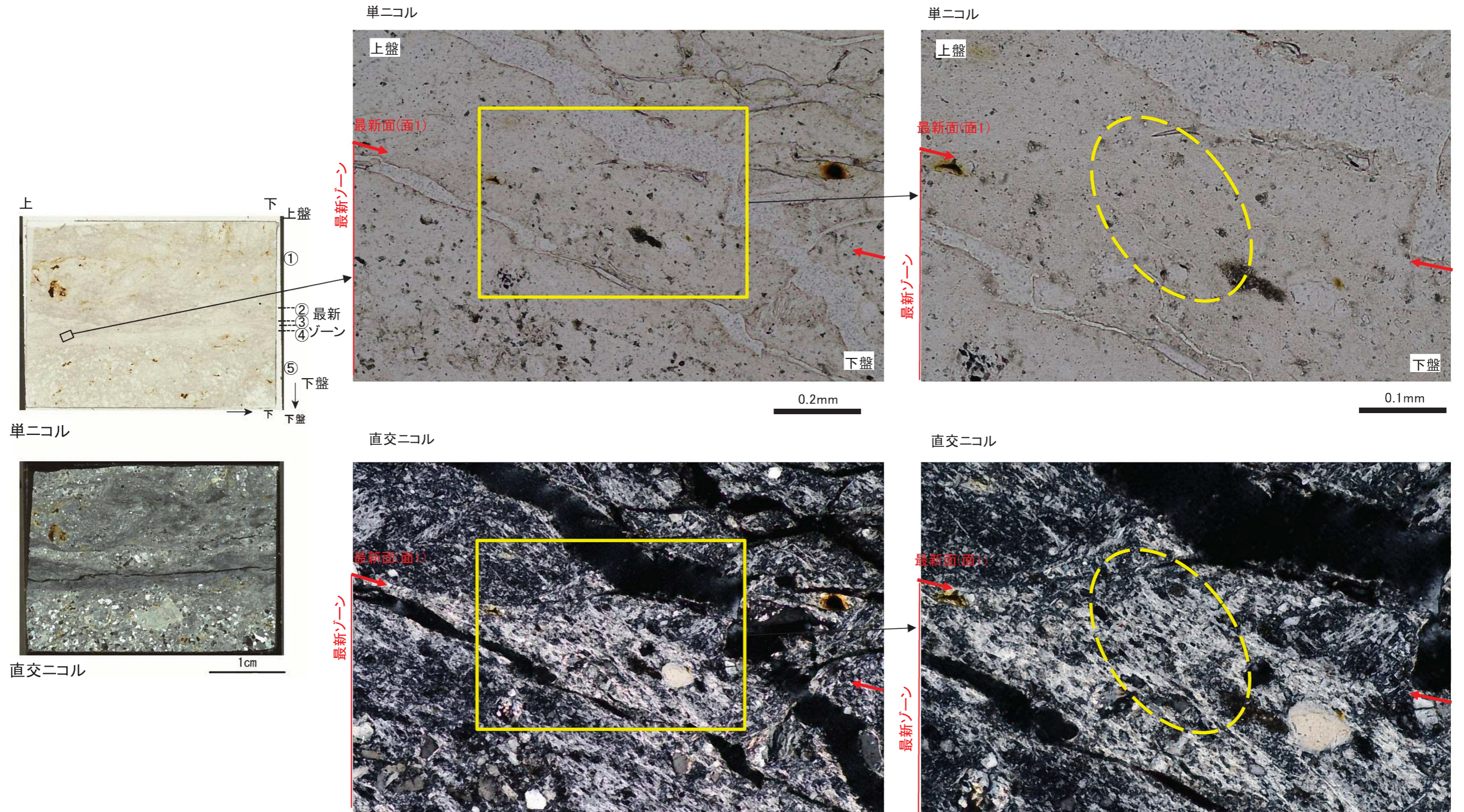
その他の破砕部のうち 27.20m付近で認められた破砕部のCT画像観察、条線観察を実施した上で、薄片を観察し、変形構造の確認を行った。



第 1. 8. 39 図(1) 破砕部⑤ 27. 20m 付近 薄片観察結果(1)

破砕部⑤ 27.20m付近 薄片観察結果(2)

その他の破砕部のうち 27.20m付近で認められた破砕部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細な観察を行った。



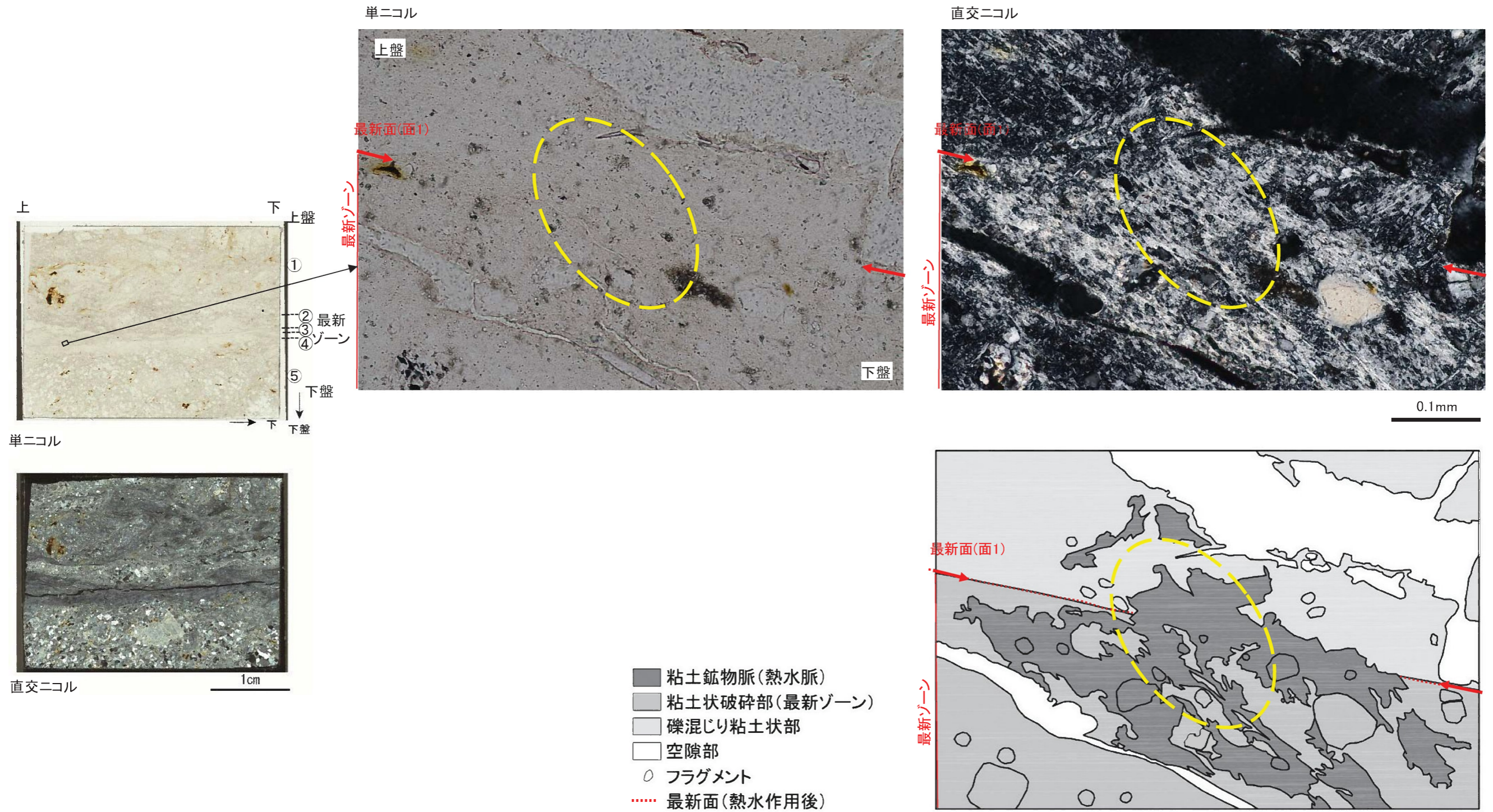
・最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
 ・また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。

第 1.8.39 図(2) 破砕部⑤ 27.20m 付近 薄片観察結果(2)

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。

破砕部⑤ 27.20m付近 薄片観察結果(3)

その他の破砕部のうち 27.20m付近で認められた破砕部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細観察結果のスケッチを以下に示す。



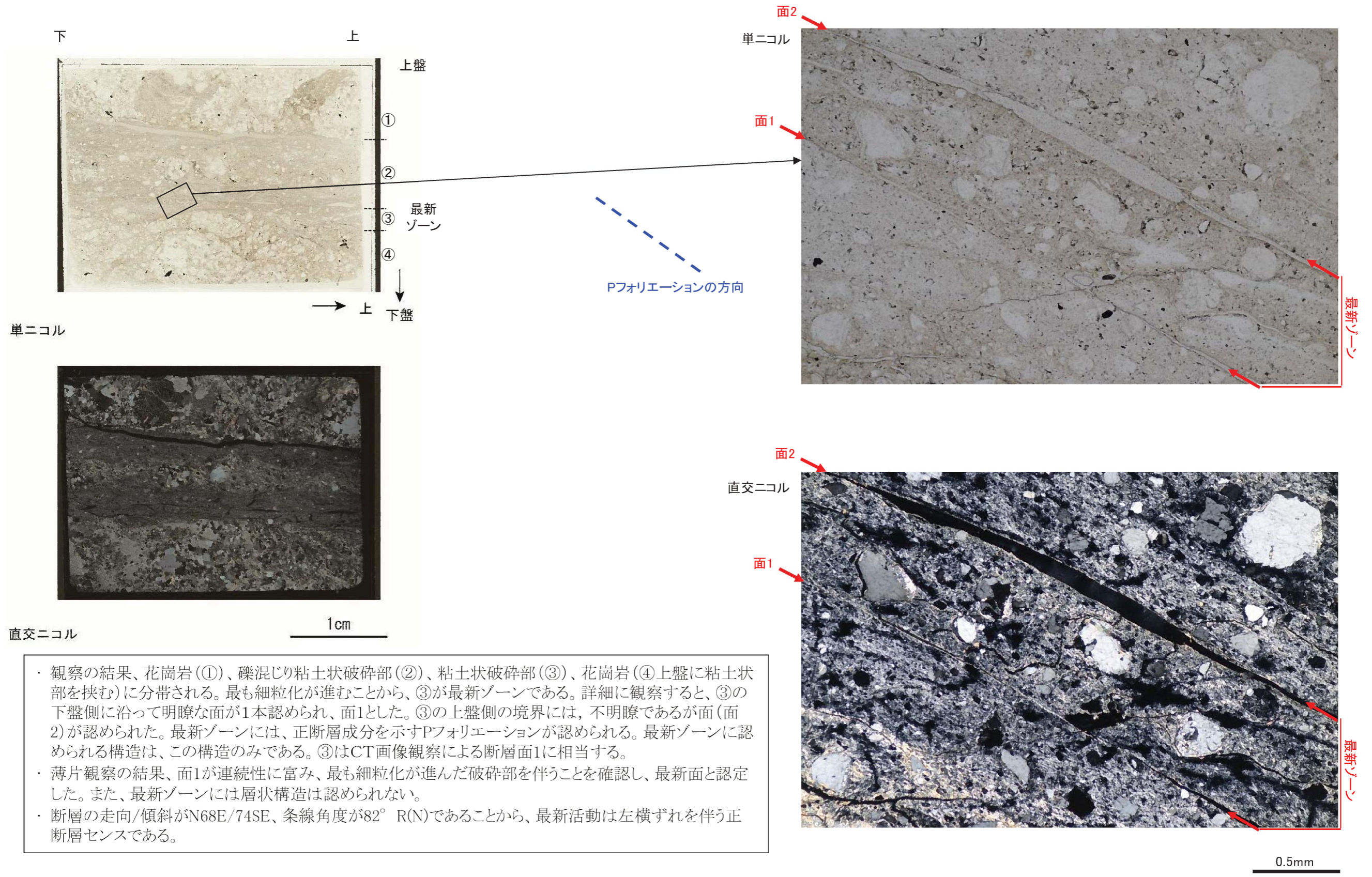
・ 最新面(面1) 及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
 ・ また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。

第 1.8.39 図(3) 破砕部⑤ 27.20m 付近 薄片観察結果(3)

 枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

破砕部⑩ [] 46.08m付近 薄片観察結果(1)

その他の破砕部のうち [] 46.08m付近で認められた破砕部のCT画像観察、条線観察を実施した上で、薄片を観察し、変形構造の確認を行った。



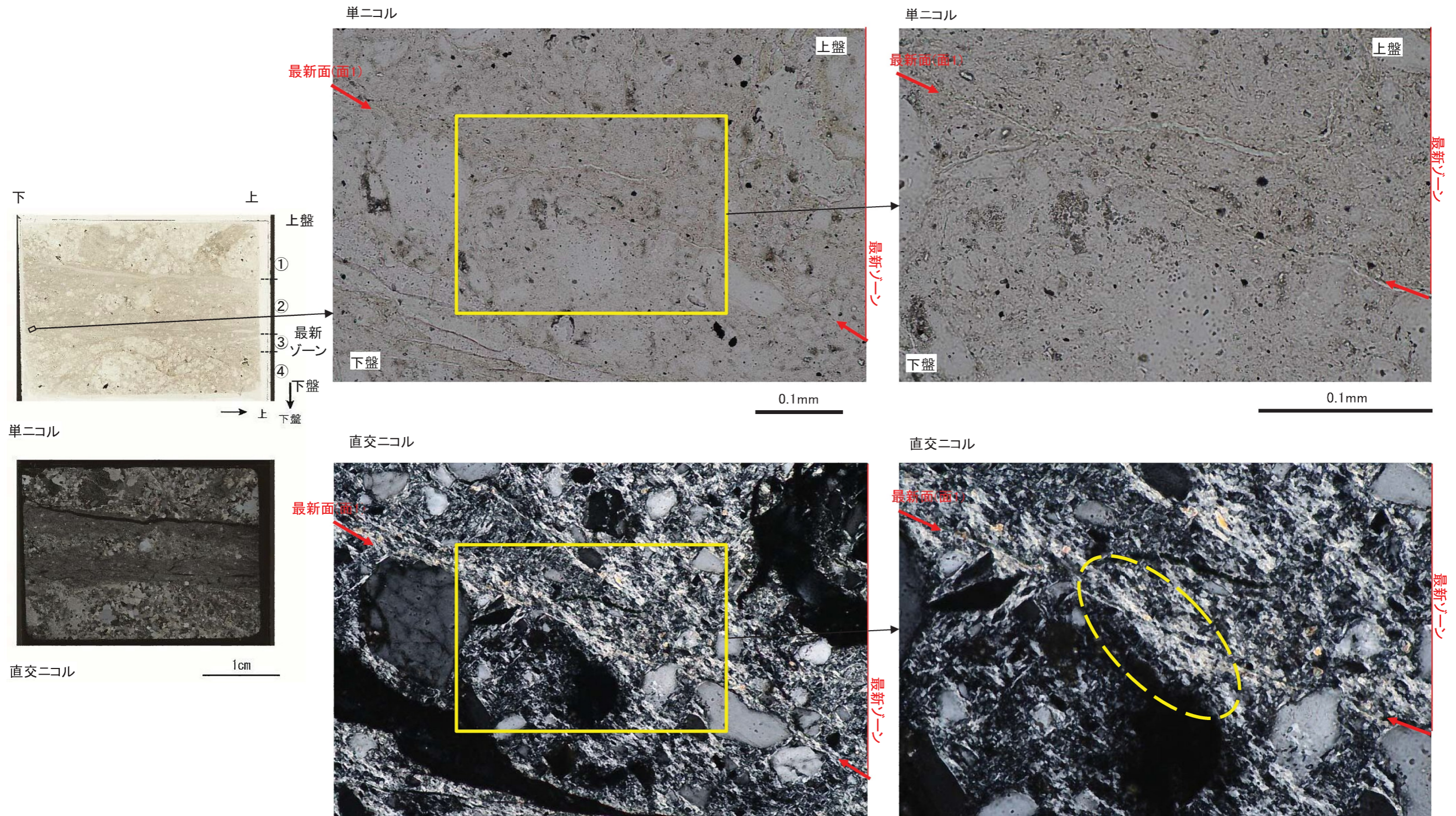
- ・ 観察の結果、花崗岩(①)、礫混じり粘土状破砕部(②)、粘土状破砕部(③)、花崗岩(④)上盤に粘土状部を挟む)に分帯される。最も細粒化が進むことから、③が最新ゾーンである。詳細に観察すると、③の下盤側に沿って明瞭な面が1本認められ、面1とした。③の上盤側の境界には、不明瞭であるが面(面2)が認められた。最新ゾーンには、正断層成分を示すPフォリエーションが認められる。最新ゾーンに認められる構造は、この構造のみである。③はCT画像観察による断層面1に相当する。
- ・ 薄片観察の結果、面1が連続性に富み、最も細粒化が進んだ破砕部を伴うことを確認し、最新面と認定した。また、最新ゾーンには層状構造は認められない。
- ・ 断層の走向/傾斜がN68E/74SE、条線角度が82° R(N)であることから、最新活動は左横ずれを伴う正断層センスである。

第 1.8.40 図(1) 破砕部⑩ [] 46.08m 付近 薄片観察結果(1)

[] 枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

破砕部⑩ [] 46.08m付近 薄片観察結果(2)

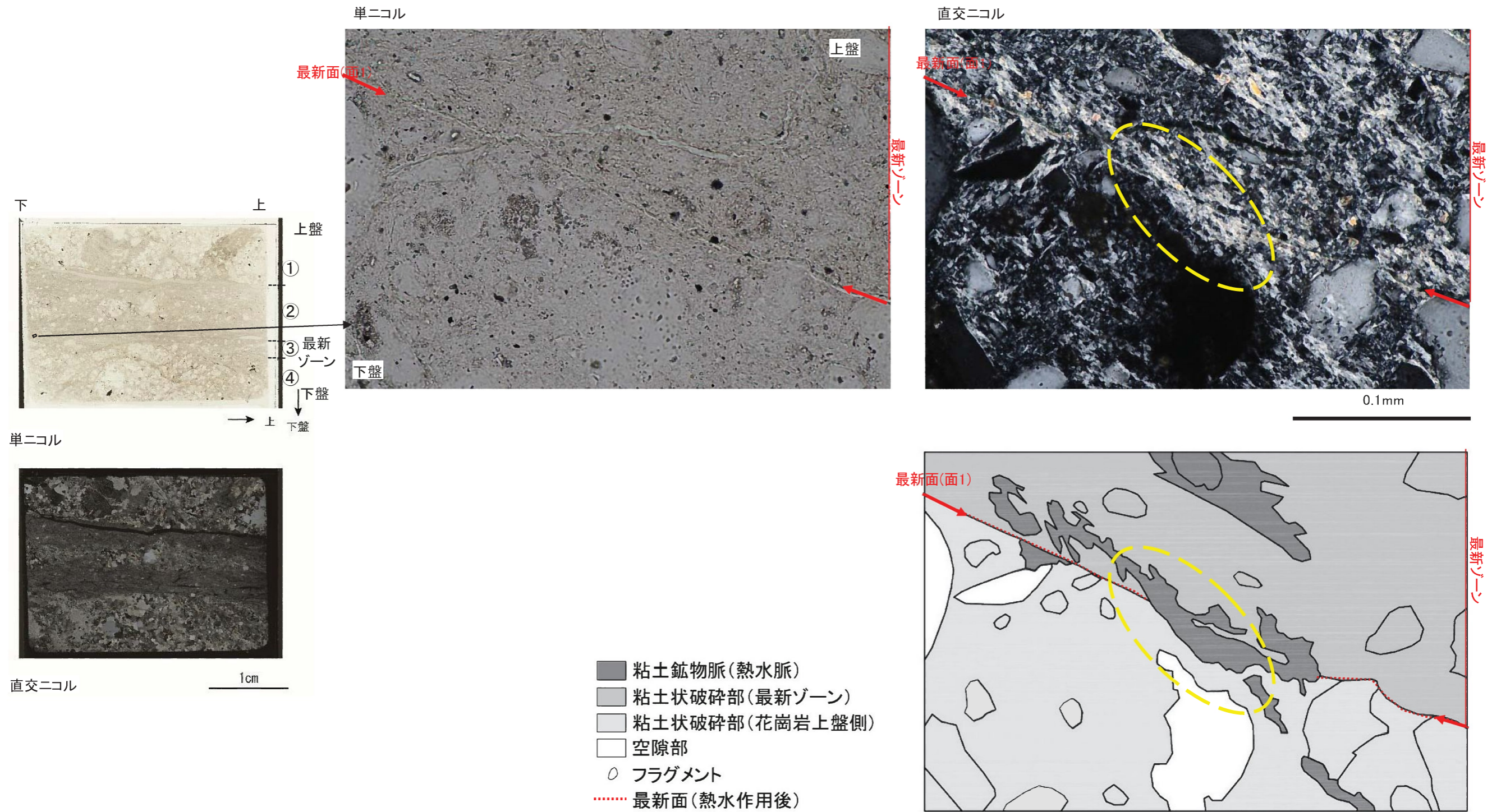
その他の破砕部のうち [] 46.08m付近で認められた破砕部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細な観察を行った。



・最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
 ・また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。

破砕部⑬ 46.08m付近 薄片観察結果(3)

その他の破砕部のうち 46.08mで認められた破砕部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細観察結果のスケッチを以下に示す。



・ 最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
 ・ また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。

第 1.8.40 図(3) 破砕部⑬ 46.08m 付近 薄片観察結果(3)

 枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。